2025年4月18日

NRU

〒812-0013 福岡市博 多駅東3丁目9番3 号 n 1

1003092-483-1515 責 千々岩 隆 水

流 章

責



島、



た。

走らせ 当時 が失われ街は壊滅的な被害を原爆投下により多くの生命 交流 Ŀ 被爆者対 あたりました。 となった被爆 数犠牲となりましたが、 受けました。 地 で長崎において、 央本部は、 区合同 \mathcal{O} \mathcal{O} 対応にあたり、 会」を開催し ・懸命に負傷者の救助にた被爆地に救援列車を 被爆職員20 策協 0,1 国鉄労働者も多 被爆80年学習 議会」を設置し、 組合は、「原爆 じました。 1 0 ・長崎、 0名以 9 7 3 荒野

割 「被爆問題の記者としての役次に毎日新聞の竹林記者より題について講演を受けました。 平一和の 報告。長崎市議の池の講演。高校生平和・ て、 採択し終了しました。 \mathcal{O} 「被爆80 「被爆体験者」問題の現状と課 被爆 取 広島・長崎から国労被 の講演を受けました。 組 平野所長から「私の 活 みについ 体 : 験者 年国労アピー は ル」を 続

爆心 霊碑 を見学・ <u>一</u> 日 心被爆 件を参拝し一日目は、 グクス 公 亰 ノ木~ した後、 察して終了 · (玉 長崎 **|鉄原爆死** 原爆 平 和 本 資園 公園 居 居 居 居 ま

5

と脱 交流 と人類は共存できない」事を心 に刻みつけ、 長 層の |会を通じてあらためて「 |崎の現地での視察や学 めあいました。 原発社会の実現に向け、 運動を強化すること 核なき世界の実現 ょ 核

碑」をは 中央本部をはじめ、 ア・地方本部から代表含め す。 今回開催された交流 今年で53 は 建立し毎年慰 玉 鉄 原 年目 郊没者以 全国 \mathcal{O} 5 工 IJ 1

と言う節

目にあたりま

す。

4月13~14日

弾

1

9

4

8

月

日

子に 年爆

が投下され、

今年で80

8月

9 5

日に長

倫 6

に原

名が参加しました。 初日 動の過去・現在・未来」 は、平和活動支援 て報告を受け や池田議員から下和大使からの 被爆者だ! -目を迎えま ったどる 以センタ 気には 対協 11

被爆80年国鉄労働組合視察学習交流会 NRU

報告する 毎日新聞竹林記者



平和賞を受賞

賞に日 器で自滅することのないよう、さんは受賞演説で「人類が核兵 害に して国家賠償を拒み、放射線被う」と訴え、また「政府は一貫 間社会を求めて頑張りましょ核兵器も戦争もない世界の人 を非難しました。ノーベは全くしていない」と日 亡くなった死者に対する償 まで続けて しました。 爆被害者団体協議 てきた「日本被団 被 の昨 爆者 限定した対策のみを今日 立年 当場から 本被団 しました。ノーベル平和していない」と日本政府 1 への国家補償を訴え 代表委員の田 ベ いるだけで、 ル平和 協を選んだ理由 兵器廃絶と原 協 [会]」が受賞 賞を、 (日本原水 中照巳 原 被爆 爆で 11

3 カ 米の軍「 ています。日本政府は「核兵器示したことが評価された」とし 二度と使 被 な 止 0 核 を目撃証 として「 恢爆国であり-加盟もしてい をめ 1 7 いどころか、 条 抑 条約(署名94ヵ国・批准717年に制定された核兵器禁抑止力の強化に踏み出し、2軍の核使用に日本が関与する ス国)をいまだに批准 未約(署名94ヵ国・ ・ます。 中の核使用 国内 ざして尽力し、 はもとより世界各 言を通じて身をもって わ 核兵器のない世界 出されています。 性」を言いながら、 れてはならないこと ŋ りながらこの対立いません。唯一 本政 11 そのオブザー 進して 核兵 \hat{O} か応のバい が実